

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	令和8年度第1回 河内長野市社会教育委員会議及び公民館運営審議会
2 開催日時	令和8年7月21日(火) 午前10時～正午
3 開催場所	河内長野市役所 501会議室
4 会議の概要	(1) 公民館に係る令和7年度事業実績と令和8年度実施状況について (2) 市民大学くろまる塾に係る令和7年度事業実績と令和8年度実施状況について (3) 市立ふるさと歴史学習館の夏季の催しについて 河内長野版歳時記プロジェクトについて (4) 夏休み子ども体験教室について (5) その他
5 公開・非公開の別 (理由)	公開
6 傍聴人数	0人
7 問い合わせ先	(担当課名) 教育推進部 社会教育第1課 (内線 8221-314)
8 その他	

* 同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

令和8年度第1回社会教育委員会議及び公民館運営審議会 次第

日時 令和8年7月21日（火）午前10時～12時

会場 河内長野市役所 501会議室

1. 委嘱状の交付

2. 開会あいさつ

小川 教育長

3. 案 件

（1）公民館に係る令和7年度事業実績と令和8年度実施状況について

資料1

（2）市民大学くろまろ塾に係る令和7年度事業実績と令和8年度実施状況について

資料2

4. 報告事項

・市立ふるさと歴史学習館の夏期の催しについて

河内長野版歳時記プロジェクトについて

資料3

・夏休みこども体験教室について

・その他報告事項、意見交換など

令和8年度第1回河内長野市社会教育委員会議及び公民館運営審議会 報告

日 時：令和8年7月21日（火）午前10時～12時

会 場：河内長野市役所501会議室

出席者：大谷議長、上嶋副議長、上代委員、岡本委員、加藤委員、吉田委員、尾谷委員、
住田委員、中道委員、杉本委員
小川教育長、尾西教育推進部長、生田教育推進部理事、濱田社会教育第1課長、
山本社会教育第2課長、太田社会教育第2課参事、内垣社会教育第1課長補佐、
山本社会教育第1課主幹兼青少年育成グループ長、四位社会教育グループ長、
浦市民交流センター長、山下

（内垣社会教育第1課長補佐）

定刻を回りましたので、ただ今から、令和8年度第1回社会教育委員会議及び公民館運営審議会を開会させていただきます。

委員の皆様には、お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。私は、本日の司会を務めさせていただきます社会教育第1課の内垣です。

開会に先立ちまして、本日の資料の確認をさせていただきます。

【資料確認】

続きまして、社会教育第1課課長の濱田から社会教育委員の構成についてご報告させていただきます。

（濱田社会教育第1課長）

社会教育委員は教育委員で行う社会教育に関する諮問機関として設けられ、社会教育活動の拡充、振興を図るため、社会教育に関して熱意を有し、知識と経験の豊かな方々の協力を得て社会教育活動を推進しようとする制度です。

このことを踏まえまして、委員の構成につきましては、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行うもの、学識経験のあるものの中から、教育委員会が委嘱いたします。また、委員の定数は15名以内。任期については2年といたします。

ただし、再任を妨げず、補欠により就任した委員の任期は前任者の残任期間といたします。どうぞ、よろしくお願い致します。

（内垣社会教育第1課長補佐）

それでは、本日の委員の皆様の出席状況をご報告申し上げます。

河内長野市社会教育委員会議規則第9条及び公民館運営審議会規則第7条の規定により、12名の委員のうち半数となる6名以上の出席が必要となっております。現在10名様出席と、欠席2名で会議成立の要件を満たしておりますので、ただ今から社会教育委員会

議及び公民館運営審議会を開会させていただきます。

本日は、皆様、新たな任期の始まりとなります。そこで、教育長から委嘱状を交付させていただきます。なお、社会教育委員は公民館運営審議会委員を兼ねておりますので、あわせて交付させていただきます。誠に恐縮ではございますが、進行の都合上、皆様を代表いたしまして、50音順で最初の上嶋様へ交付させていただきます。他の皆様の委嘱状につきましては、あらかじめお手元の机上に配付させていただいておりますので、後ほどご確認をお願いいたします。

【小川教育長から上嶋委員へ委嘱状の交付】

(内垣社会教育第1課長補佐)

皆様ありがとうございます。それでは、開会にあたり、小川教育長から一言ごあいさつを申し上げます。

(小川教育長)

皆様お集まりいただきましてありがとうございます。教育長の小川でございます。今回より、委嘱状交付を簡略化させていただきました。簡略化により、生み出された時間を、これから行う議論の中でしっかり使っていければと思います。

さて、前回の任期の最後で、第三期の教育大綱についてご説明いたしました。まちづくりの指針となる市全体の総合計画と合わせて、今回教育大綱も改定し、誰1人取り残さない子どもまんなか教育の実現を4つの基本理念を掲げて進めて参ります。ただ、こちらの教育大綱はあくまで大綱であり、大きな方向性は示しますが、具体的にどういう形で展開するのかにつきましては、旧大綱を受けて、教育委員会も、教育推進プランを策定しております。

教育大綱は市長が教育委員会と協議して定めるものですが、それに基づきまして、教育委員会としてどうしていくのかというのが教育推進プランでございます。お手元にお配りさせていただいておりますが、行政として取り組むにあたっての落とし込みをしております。これは、基本理念だけでは動きませんし、今回特に総合計画とのリンクということで、「地域が丸ごと学校（学びの場）」や、「学びを誰かの喜びに」、「ここにしかない」時間を求めて」、最後はわかりやすいのですが、「地産地消で日本一の給食カレーを」の4つのビジョンを掲げております。

表紙を開いていただければ、背景を改めて整理しております。4つのビジョンから教育委員会で行う8つのアクションという形で、それぞれの各課の取り組み等を記載しております。教育行政の計画に近い形になっております。施策展開する上ではわかりやすくなっていると考えております。

1ページ目は、「教育推進プランとは」。次に、2ページ目をご覧ください。私も常々で色々なところでお話させてもらっておりますが、教育を一本の木に例えております。土壌とし

て、就学前の学びがあり、そして幹となる学校教育。そして最終的に何を指すかという
と、やっぱり社会教育、社会の作り手を育てていくのが教育ではないかと考えます。つま
り、教育大綱ではこどもまんなかの実現、具体的には、誰一人取り残さない、社会の作り
手を育てる教育、ということでございます。

そこで、学校教育と社会教育の連携から融合へ、というような形で申し上げております。
教育の話というと、学校教育、子供のことを中心に展開しがちですけれども、社会教育出
身の教育長として、私は社会教育の重要性というのは、常々感じております。

特にこどもたちにとっての体験教育は、もちろん地域教育として大事ですが、やはり、民
主的で持続可能な社会づくりのためには大人になってからどういう教育、どういう学びを
していくのかということが重要でございます。

これからも学校教育と社会教育をしっかりと結び付けていくことこそが、教育推進プラン
の一番の肝になっているところです。

今回お集まりいただいている社会教育委員の皆様には、我々がどういった視点、視座を必
要とすべきかを改めて、これまで以上に貴重なご意見を頂ければと思います。

令和8年度1回目の会議ということで、色々とお話させていただきました。今後も、学校
教育と社会教育との融合に向けた教育委員会の取り組みをしっかりと見守っていただけれ
ばと思います。

簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。
ありがとうございました。

(内垣社会教育第1課長補佐)

なお小川教育長は、公務のため、ここで、退席となります。

それでは、改めて委員の皆様と事務局職員の紹介をさせていただきたいと思います。

お手元の名簿の中で、欠席者も含めて、紹介させていただきます。

【出席者紹介】

次に、年度当初ですので、議長・副議長を選出いたします。

【議長・副議長の選出】

それでは、大谷議長、議事進行よろしく願いいたします。

(大谷議長)

それでは、案件（１）公民館に係る令和7年度事業実績と令和8年度実施状況について、
を事務局より説明をお願いします。

(四位社会教育グループ長)

案件1 公民館に係る令和7年度事業実績と令和8年度事業実施、実施状況について説明さ
せていただきます。

【資料 1 に従って説明】

以上で説明を終わります。

(大谷議長)

それでは委員の皆様からのご意見を頂戴いたします。

(上代委員)

南花台公民館の防災キャンプについて、資料には回数が 1 回とありますが、キャンプ自体は 1 回ですが、その前に夏休みに公民館の事業で防災センターを見学するという講座を行っていただきました。30 名近い参加者がおり、その生徒たちを中心に、防災キャンプを企画していただきました。学校の避難訓練でも、あなたたちは助けてもらう側ではないと子どもたちには伝えています。また、いろんな被災地で中学生が活躍されているというケースもございますので、そういう視点で防災を考えないと申しております。ちょうどこういう企画をやっていたので、色々な経験をさせていただきながら、生徒も自覚が芽生えているのではないかなと思います。南花台地区は少子高齢化が河内長野市内の中でも進んでいる地域であるという状況も併せて、中学生が地域防災の担い手になってくれたらなと思っており、そういう意味でも、本当にいい体験をさせていただいたと思います。今年度も中学生との連携講座を色々企画していただいているということなので、私は南花台中学校を離れてしまっておりますが、これからも応援していきたいと思います。

(加藤委員)

千代田中学校と千代田小学校生を対象に、青少年健全育成会で夏の体験デイキャンプをさせて頂いております。今回は救命救急、煙ハウス、電話の対応等、色々な体験を行っております。人数が今回は 27 名ほど。さっき言われていたアルファ化米は、震災が多かったこともあって今年是用意できなかったのですが、かわりに無洗米を袋に 1 合入れて、湯に入れて作りました。子どもたちが怪我しないように、カレーの材料はスタッフが切って、子どもたちは玉ねぎの皮をむく等をやって、みんなと一緒に食べました。

(大谷議長)

公民館も一緒にやっていますか。

(加藤委員)

いえ、健全育成会が単独でやっています。

(大谷議長)

ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

(杉本委員)

南花台の講座に関して、コミュニティスクールとの関係はどうなっていますでしょうか。

(上代委員)

今回の講座はコミュニティスクールとは別の形で行っています。公民館の館長さんとは健全育成会の会議等でもよく顔を合わせる関係ですので、その中で話をして企画していただきました。高齢者や小さいお子さんは公民館の利用者に多いが、中学生の利用は少ないという状況を踏まえ、講座を実施しました。広報その他のほか、学校でも募集をかけました。コミュニティスクールとの連携を考えるのであれば、自治会の会長がコミュニティスクールに入っているの、自主防災の観点からお声掛けはしたのですが、日程が合わなかったため、今後は協力できたらいいなと考えております。

(大谷議長)

公民館だけでやる講座というよりも、コミュニティスクールの仕組みをもっと活かせれば、地域の大人がもっと関われるようになるのではないのでしょうか。公民館とコミュニティスクールが河内長野ではつながっていないので、そこが連動できるようになると、より地域全体で子どもたちを見ることにつながると思います。

(杉本委員)

おっしゃる通り、コミュニティスクールの存在はこれからものすごく大事です。そして例えば防災キャンプを何のためにやるのか、子どもたちの何を育てるのかということを学校教育と地域の人達が共有していなければならない。大谷議長の言葉を借りると、行事实施型ではなくて課題解決学習という形で子どもたちが関わる、そういうベースがないと、企画は実施したけれども、子どもたちには何も残らないということが、他の都市でもそういう事例があるので、できれば一緒にやるとか一枚かんでもらうとか、が必要だと思います。せっかくいいことをしているのにもったいない。そのためには、コミュニティスクールを活用していただければと思います。

(大谷議長)

公民館の館長や職員さんがコミュニティスクールのことを知る機会というか研修のようなことはやっていますか。

(四位社会教育グループ長)

今お話しをお聞きしていて、その視点が弱いなと感じました。

(大谷議長)

それこそ杉本先生に来ていただいて、お話をしていただいたらいいのではないかと思います。公民館の職員さんたちは、すごく色々なところとつながるノウハウを持っていて、そういうところにアンテナを張っていると思うので、コミュニティスクールの会議で何かを決めなければならないというのではなく、現場の人が入っていただけるとかっていう機会をちょっと探るためにも、知りたい、つながりたいと思っている公民館職員と地域の方をつなぐことができればいいかと思います。

(四位社会教育グループ長)

かしこまりました。

(杉本委員)

加藤委員がおっしゃったように、色々なスキルやノウハウを持っていらっしゃる方がいるので、本当に生かせるような形にしていけないと、ただ子供たちがやりましたっていう、体験で終わってしまっては駄目です。そこで子供たちの何が育つかっていうことはやっぱり考えていけないと、せっかくいいことをして、いい経験をされている方がいらっしゃる、それを活かすという方向性をコミュニティスクールは持っているので、是非絡んで頂ければと思います。

(中道委員)

コミュニティスクールの活動が見えないという部分もあります。活動が点としてわかることはあるのですが、コミュニティスクールが何を求めて何をしようとしているのかが見えない。点が点で終わらずつながって線となって、線が面となってパワーを持っていかないと、機能していかないので、こういうことをコミュニティスクールにも学んでほしいです。研修をするのでしたら、コミュニティスクールの人たちも参加して、みんなが学ぶ場がないと、同じステージに立てない。

昨年の6月25日に、社会教育に関する諮問が出ています。答申を待っているところなのですが、おそらく、社会教育を軸にして、つなぐためのプロの人たちを全国のあちこちに作ろうとしていると思います。答申はそのことを具体的に言ってくると思うのです。1年かけてまだ答申が出てこないのは珍しいことです。よっぽど悩んで一生懸命作っておられるのだと思います。その答申が出てきた時のことを考えて準備を進めておかねばならないと思います。

それぞれが点でなさっていることがもったいないと思います。学びあうとか、つながることを何とか考えていただけると、苦労が苦労でなくなる、お互いで課題を解決できるようになると思います。

河内長野の皆さんは本当に頑張っていらっしゃって、エネルギーをお持ちですので、私も

本当に応援したい、と思っております。

（大谷議長）

それぞれみんなが単発で活動していて、イベントがかぶってしまい、子どもも大人も取り合い、参加者も取り合いになっているような状態を、うまく循環させたり、緩やかにつないでいくべきではないかと思います。「一緒にやりましょう」が強すぎると、それぞれの個性が失われてしまうので、「これやるから一緒にやりませんか」、「ここの力を貸してください」というような形で行えば、「もったいない」も少しは解消されるのかもしれませんが。今回のような評価の表で出されてしまうと、「ここの公民館はこれをしました」、でその先どうなるかがわかりにくい。子供の変容が現れ、参加者のいろんな経験値は繋がっているのだけれども、もう一步踏み込んでほしい。せっかくコミュニティスクールを大阪府で一番最初に入れた河内長野市であるからこそ、活用してもらえたらなと思います。

（杉本委員）

評価についてよろしいですか。公民館の活動の評価表作っていただいております。きちっとした評価になっているように思います。

以前は定量的な思考だったのが、定性的に変わってきたところが非常に大きな変化だと思っています。今、一番いい評価の仕方だと思っているのが、加賀田公民館です。最後のところに、「公民館を越えて、地域とどうつながっていくかが課題である」とはっきりと課題を言っています。目的を見ると、「住民のつながりっていうのを作りたい」と書いてある。講座を実施してみて、公民館の中では繋がりはできているが、それ以上のものはできなかったのが、公民館を越えた個人の繋がりを作っていきたいというような課題を出している。1つのモデルケースじゃないかなと思います。どういうことかという、目的に対してどれだけ達成されて、どれだけ課題が見えてきたかっていうところを書いていただきたい。他目的との関係なしに課題を書いている館もある。例えば参加人数が少なかったとして、人数を集めることが目的ならば、これはいいのですが、①欄と③欄に整合性があるかっていうところを考えていただきたい。そうでなければ我々が議論をできない。そういう課題であれば、こういう評価で考えてみたらどうかっていう話ができるので、以前にもちょっと申し上げたかもしれませんが、PDCA サイクルを回していくというならば、チェック（C）は何かというと、目的が達成されたかどうかというのが評価であって、その整合性を図っていくところを公民館職員へご指示いただければありがたい。そうすれば我々も評価がしやすい。

先ほどの南花台公民館の説明で、今後の課題の欄で、20名以上の参加とありましたけれども、今後も学校との連携を様々な形で続けていくとありました。それはそれでいいのですが、生徒が今後は参画することを検討するという説明がありました。この次はお客さんにならず、自分たちが、企画者になって一緒に企画する。これはすごく大事です。今の学校

教育の中で課題解決学習はまさしくそのことをねらっているし、今世界的にも、子どもたちにつけたい力、コンピテンシーと言いますが、創造性だとか、企画力のような力をつけさせたいというのが世界の教育の傾向だし、日本もそれに倣っているので、大事な話だと思います。説明では、生徒が運営側に回ることを先ほどおっしゃっていただいたのですが、資料にも記載しておいていただきたい。

（中道委員）

「【参考】公民館主催事業への評価の導入」の資料のPDCAのAの記述について、「(A)各公民館の地区運営委員会及び利用団体は、各館の事業計画の実現に協力する。」とあるのですが、評価されたことを活かそうという書きぶりではないのではないのでしょうか。評価を受けて、「改善」という姿勢を入れていかないと、前進できないと思う。検討していただきたい。

（杉本委員）

「改善」は2種類あると思います。やり方を変えることと、あり方を変えること。やり方を変えるという、リノベーション。家に例えるなら、家はあって、家の中身を変える。もう1つは、イノベーションと言って、家の建物自体を変えてしまう。今回の話で言うと、この目的はこれでよかったのか。例えば、健康というカテゴリーでこういう目的を設定したが、その目的自体が間違っている場合がある。目的を変えることも必要なんです。「方向を変える」のか「目的を変える」、2種類の改善がある。どっちをやるのかということを考えていく必要があるのではないのでしょうか。リノベーションで変えるのか、イノベーションで変えるのか。そこを検討してもらう必要があるのかなと思います。もちろんこの場で検討していただいてもいいと思います。もう1つ提案で、こういう評価をAIにやってもらってもいいのではないのでしょうか。「こんなことやりました。こんなふうになりました。課題は何ですか」というポイントをきちっと押さえてくれます。AIにできることは任せて、付け加えるものがあれば付け加えればいいので、もっとAIを活用していったらいいのではないかと思います。そうしてできた評価をこの委員会で議論する。それがいいと思います。

（大谷議長）

ありがとうございます。リノベーション、イノベーションの視点を持ちながら改善を進めていただければと思います。

（大谷議長）

続きまして、案件（2）市民大学くろまる塾に係る令和7年度事業実績と令和8年度実施状況について、事務局から説明をお願いします。

(浦市民交流センター長)

【資料 2 に基づいて説明】

以上で説明を終わります。

(大谷議長)

それでは、案件(2)について、委員の皆様からご意見を頂戴します。

(大谷議長)

くろまろ塾のロボットプログラミングのような取り組みに対して、もっとPRしたほうが、いいのではないのでしょうか。

(浦センター長)

その通りです。そこが一番の課題です。全中学校へのチラシの配布等を行っているのですが。

(大谷議長)

くろまろ塾で学んできた子どもが世界大会に出場する、というのはすごいことだし、格好のアピール材料になると思います。くろまろ塾は高齢者っていうイメージが余りにも強すぎるので、今回の講座であれば、市民の声を聞いて回数も増えて、オープンスペースになって…というストーリーがちゃんと出来ているので、そういうものこそ、もっとPRした方がよいと思います。

(中道委員)

本当に色々な講座を実施されていることは素晴らしいと思いますが、公民館のように、講座の目的を設定して、それを講師と共有されたりはしていますか。講師も様々な経験をし、ノウハウも持っているので、河内長野市ではこういう活動を行っているという情報だけでも、講師とのやりとりの中で共有していただけると、多くのヒントを河内長野市ももらえるのではないのでしょうか。そうでないと講師も言われたことだけをやって終わってしまうと思います。社会教育の一環としてくろまろ塾講座を展開していくということは、センター長を中心にファシリテートしていかなければならないと思います。

(吉田委員)

AIの講座は、興味持っている年齢層が若い方だと思います。講座の参加者のほとんどが70代で、アンケートの満足度もすごく低いというのは、多分内容が難しかったのではないのでしょうか。広報の仕方にも問題があるのではないかと思います。日程設定も平日は厳しい

のではないのでしょうか。

（大谷議長）

満足度は「大変満足」の数字のみなので、「満足」も入れればもっと上がるのではないですか。

（浦センター長）

その通りです。ただ、以前の会議で満足度は「大変満足」のみにするという話がありましたので、その数字になっております。

アンケートを記入されている方で、すごくよかったと思われる方は「大変満足」なのですが、普通に聞いて、アンケートの記入も特にない方は「満足」に印をつけておられます。

（大谷議長）

吉田委員よりご質問があった対象者や広報についてはいかがでしょうか。

（浦センター長）

対象年齢は決めているわけではないです。

（大谷議長）

でも、参加者のほとんどが高齢者である。

（浦センター長）

そこが1つの課題です。そこで今年は、実際に自分のパソコンやスマートフォンで、AIを活用しよう、ということで、中学生、高校生をターゲットにしましたが、また、秋に若い方を対象としたAI講座はしようと思っています。

（中道委員）

時間帯、曜日は若い世代がターゲットのものになっていますか。

（浦センター長）

夏休みです。8月19日、26日で、時間は午後2時から3時半に設定しています。

（中道委員）

わかりました。ありがとうございます。

（尾谷委員）

市内のバスが減便されたことの影響が、参加者、特に高齢者に出ているのではないかと思います。講座の開始時間をバスの時刻に合わせている、等の対応はされているでしょうか。

（浦センター長）

午後 2 時 10 分着のバスがあるのですが、それに合わせると今度は帰りのバスの時間に合わない、というようなこともあって、今まで通りの時間にしております。2 時に来ようと思えば 12 時過ぎしかバスはないので、困っているところではあります。

（大谷議長）

公共交通機関を利用する場合の不便さに関する、利用者からの意見は出ていますか。

（浦センター長）

意見はありますが、元々のバスの本数が少ないので対応が難しい部分もあります。

（大谷議長）

講座の実施時間の伸縮を含めて検討をお願いしたいです。

（岡本委員）

くろまる塾講座は公民館で実施しているものですか。

（浦センター長）

くろまる塾には大きく 2 種類ございまして、今発表しておりますのが、市民交流センターで行う「本部講座」、もう一つが、「認定講座」で、公民館に限ってはおりませんが様々な場所にくろまる塾として講座を実施しております。

（岡本委員）

ありがとうございます。公民館の方は、インスタグラムを上げてくれているので、情報が手に入りやすいです。広報紙だと文字だけだが、インスタグラムだと写真やポスターも見られるので、とても身近に感じます。ただ、先ほど話に出たように、バスの本数が少ないので、自宅近くの南花台公民館か三日市公民館へ行くことが多いです。講座の情報としては、今まで興味を持っていなかったことに関してもたくさんいただいています。

（住田委員）

くろまる塾は若い方にも興味を持ってほしいという思いはありますか。

（浦センター長）

もちろんあります。

（住田委員）

何に興味を持っているのかを若い世代の人達への聞き取りを行って、講座の内容やアプローチの仕方を考えみても良いのではないのでしょうか。

（大谷議長）

例えば、メイクやファッションの講座だと若い人も高齢の方も興味ありそうなので、いいかもしれませんね。

（上嶋副議長）

前回の会議で、これまでの受講者を活かさないかという意見を頂きました。そこで集いを開きましたので、内容を報告させていただきます。

集まった方は決して多くはなかったのですが、集いを開いたことへ感謝していただきました。学んだことを活かしたいという前向きな考えの方もおられました。集いは今後も開催したいと考えております。

（中道委員）

すばらしい報告をありがとうございます。熱のあるうちに次はそれをどう活かしていくのかというノウハウを入れていかないと具体化しないので、是非そうしてほしいです。

（杉本委員）

くろまる塾の講座ごとの定員はどのように決めていますか。

（浦センター長）

70 名、100 名等の定員は講座を実施する部屋の容量です。人数が少ない 20 名や 30 名というのは、移動で使う市のマイクロバスの収容可能人数です。

（杉本先生）

わかりました。その設定方法は、マーケティングの視点から見るとあまりよくないです。例えば、ディスカッションしてもらうためには 100 名では多いな、とか、講座の中身で定員を決めるという視点も持って、適正な定員数を考えていただければと思います。

（大谷議長）

ありがとうございます。これにて検討すべき案件は終了となります。それでは、次第に基づき、報告に移ります。

「市立ふるさと歴史学習館の夏期の催しについて」、 「河内長野版歳時記プロジェクト」について、事務局から報告をお願いします。

（太田社会教育第2課参事）

【資料3に基づいて説明】

以上で説明を終わります。

（大谷議長）

ご報告、ありがとうございました。それでは、続いて「夏休み子ども体験教室について」、事務局から報告をお願いします。

（山本社会教育第1課主幹兼青少年育成グループ長）

【説明】

以上で報告を終わります。

（大谷議長）

ありがとうございます。続いて、第68回全国社会教育研究大会大阪大会と次回の社会教育委員会議の説明をお願いします。

（四位社会教育グループ長）

【説明】

以上で説明を終わります。

（大谷議長）

ありがとうございます。それでは、この後は委員さんを2つのグループに分けて15分ほど、グループワークを行いたいと思います。今年度最初の会議ですので、ご自身の活動内容を自己紹介兼ねてお話しください。

【グループワーク】

（大谷議長）

それでは時間が参りましたので、グループワークは終了です。これにて閉会とさせていただきます。皆様お忙しいところ、ご出席いただきましてありがとうございました。

公民館に係る令和7年度事業実績に対する評価について

資料1

館名	社会教育課題	①(設定)問題意識／目的	講座名	内容	回数	②(手段)実施方法、内容の詳細	③(成果)今後の課題
川上	健康	川上地区は高齢化が進み、交通の便も悪い。これらの問題点に対して、健康寿命を延ばすこと、市街地に出なくても市民が楽しめる場所を創るために公民館ができることを行う。	ステキな自分をつくる講座(継)	健康をテーマに、 ①呼吸発声編「音読」 ②体幹強化編「フラフープ」 ③美肌作りで印象アップの3回連続講座を実施した。	3回	健康をテーマに、発声法、フラフープ、美肌作りの3つの視点から、それぞれに専門の講師を招き講座を行った。座学と実践の両方を行った。	参加者のアンケートでは、今までやったことがない内容で良かったという声も多かった。情報宣伝の際に、3回の講座をセットで打ち出してしまったため、参加者数が伸び悩んだ。令和8年度からはそれぞれ単独での申し込み明示して募集を行う。
加賀田	コミュニティづくり	加賀田地区は近年、自治会員の加入率低下が見られ、災害時等に備えた地域住民のつながりづくりが課題である。顔が見える地域のつながりを強化するため公民館もその一翼を担う。	市民企画講座「わくわく塾」(継)	公民館職員がファシリテーターとなり、公民館利用者が自主的にイベント等を企画・運営する市内公民館初の「市民企画講座」。「歌声サロン」、「野菜の栽培」「防災食作り」等を実施した。	9回	講座の企画から運営まで、わくわく塾生が中心となって、公民館クラブや同好会員、自治会員などにイベントや催しへの参加を呼びかけた。全ての講座を参加者が主体となるように働きかけた。	小学校との複合化という起爆剤があり、地域のつながり作りは徐々に出来てきた。参加者の主体性が目に見えて向上しており、継続した活動も軌道に乗っているが、公民館を越えて地域とどうつながっていくかが今後の課題である。
高向	郷土・伝統・文化	地元施設の認知度を高め、ふるさとの魅力や地元への愛着心の喚起につなげる。歴史や地理、教育や産業など様々な河内長野の姿について、楽しく学ぶ機会とする。	高向の地域学・ふるさと歴史講座(継)	社会教育委員の尾谷委員を講師に招き、ふるさと歴史講座「近世高向の人々－高向のお殿様たち－」と題した講座を実施した。	1回	江戸時代を中心に、高向地区の歴代の領主と当時の様子を座学で詳しく解説した。	年度当初は3回シリーズだった。都合により実施できなかった2つの講座に関しては、ともに令和8年度に以下の通り実施予定。「時をつむぐ高向ミュージアム」高向地区の住民から写真とその写真にまつわる情報や思い出を集め、デジタル化し、動画等で公開する。「地域のことば」河内長野南西部の郷土のことばの魅力を知る。高向小学校とのふれあい合校として実施予定。
千代田	コミュニティづくり	公民館図書室の利用者同士のつながり作りと若者が本を通じたコミュニケーションを行うことを目的とする。また、使用の少なかったロビースペースの活用にもつなげる。	大阪大谷大学連携講座 Books & Café「週末文庫」(新)	ビブリオバトルを模した形式だが、本の紹介を通して人と人が出逢う場所になるような雰囲気を実践。セルフの飲み物コーナーも設置。大阪大谷大学文学部の先生と学生が当日の進行や発表者として参加。	3回	公民館利用者に加え、市内の中学生、高校生にも声をかけ、参加があった。5月、6月、8月に1回ずつ実施。テーマは特に設けず、お勧めの本を紹介し合った。	令和7年度より、運営を企画委員(実行委員)方式に変更。公民館図書室の利用者が主な委員となり、講座実施後は振り返り会を行っている。将来的に自立した組織になることをめざして、今後もサポートを続けていく。
三日市	郷土・伝統・文化	河内長野市や三日市地域の事業者からの生の声を聞く。公民館との連携を通じて、市の事業の周知、参加につなげていく。	地域の産業を考える(継)	三日市地域の事業者を招き、 ①VR工場見学 ②美味しい！嬉しい！うれしい！ コーヒーハンドドリップを実施した。	2回	「今聞きたい、お米のはなし」も入れた3回シリーズの予定だったが、講師の都合により未実施。①は産業観光課の「ワークワクワク」と連動して実施。「ワークワクワク」への申し込みにもつながった。②はコーヒーを愉しむだけでなく、背景にある様々な社会教育的課題にも触れる講座であった。	①、②ともに令和8年度も継続実施。特に②に関しては、コーヒーの飲んだ後のリラックスした雰囲気を活用した参加者の交流・相談事業を人権推進課と調整をしている。年数を重ねる中で講座の運営方法を新しい形態へ進化させている。
天見	家庭教育・子育て	自然を使った遊びの場を提供し、子どもたちの創造力を育むとともに、保護者と子どもの絆を深める一助とする。	大阪千代田短期大学連携講座 冒険、遊び場(新)	千代田短期大学連携講座。親子でちよたんパークで遊んだ後に焼き芋を作って食べ、親子、参加者同士の交流を深めた。	1回	パーク内は大きな広場で、手作りの遊具もあり、子どもたちは常に動き回っていた。ドラム缶を使用して焼き芋を行った。	課題は、年中～小2と対象者を絞りすぎたこと、初動の遅れから日程が地域のイベントと被ってしまったことで参加者が4組16名に留まったこと。講座の内容は子どもたちが参加者の満足度が高く良かったので、上記の課題点を一つ一つ改善していく。
天野	コミュニティづくり	人材発掘と活躍の場の提供、公民館の利用者増を目的とする。	天野公民館講師募集 あなたのスキルを活かせませんか？(新)	公募で選ばれた講師が、ウッドバーニング、似顔絵、干し野菜、防災食、片付けの講座を実施した。	7回	講師は館長と事務職員が面接を行った上で選定。予想に反して5名以上の応募があった。講座のテーマも多岐にわたった。	実施した講座から、新しい公民館利用団体の結成への動きが出ている。ただ、講座のテーマによって、毎年講座を行うものと、公民館利用団体につなげていくものに分かれるので、それぞれに講師へのサポートを行い、活動を継続・発展させていく。
南花台	安全・安心	地域の学校との連携を深めるとともに、講座を通じて子どもたちが地域で活動している人となりが、また地域のために出来ることは何かを考えるきっかけを作る。	南花台中学校連携 中学生の防災キャンプ(新)	南花台中学校の体育館で1泊2日の防災キャンプを行った。	1回	防災士による講義、防災食を用いたクッキング、カードゲームやクイズを用いた防災ワークショップ等を実施。防災用テントの設営まで中学生自身が行った。	20名以上の生徒が参加し、参加者も学校も非常に喜んでくれた。今後も学校との連携は様々な形で続けていく。

(継) 過年度からの継続

(新) 令和7年度が初実施

【参考】公民館主催事業への評価の導入

1. 目的

公民館の社会教育機能を高め、よりよい主催事業を企画、実施するため、特定の公民館主催事業に対して、定性的な（数字では表せない本質的なものを言葉で表すような）評価基準を設ける。

2. 基本方針

公民館主催事業は、個人化された（個人的ニーズによる）学習から、地域社会の要請（ソーシャル・ニーズ）による学習へと軸足を移し、企画段階から評価基準を意識して企画、実施する。



公民館主催事業が目指す取り組み

- ①社会教育課題の学習の推進
- ②地域課題の解決に寄与する人材発掘と育成
- ③学習や体験を通じた仲間づくり

3. 評価基準

①社会教育課題の特定

→社会や地域のどのような現象を社会教育課題に位置付けて企画に反映するか。

②課題解決方法

→課題に対し、誰が、誰に、どのように、何を、どうすることを意図するか。

③行動変容・人材発掘と育成方法

→参加者の行動や意識をどのように変化させ、どのような人材を育てるか。

④事後の普及啓発・仲間づくり

→行動につなげるため、グループ化する等どのような支援や関わりができるか。

4. 評価のPDCAサイクル

（P）各公民館は、評価基準を意識して、次年度の主催講座等の【事業計画】を企画する。



（D）公民館運営審議会は、事業計画に対して助言を行い、各公民館が事業計画を遂行する。



（C）各公民館は、主催講座等の実績について、評価基準に基づく【自己評価】を行う。



（C）公民館運営審議会は、事業実績をふまえ、評価基準に基づく【客観的評価】を行う。



（A）各公民館の地区運営委員会及び利用団体は、各館の事業計画の実現に協力する。

【参考】社会教育課題とは

（１）【重点】人権

様々な人権問題を認識し、講座の中で自分と他者が話し合って考えを認め合う。

（例）ジェンダー、同和、障がい者、在日外国人

（２）【重点】コミュニティづくり

市民企画の講座を増やすなど、市民が地域の課題について考え、自ら行動する機会を創出する。また、小中学校・高校・大学や専門学校との連携を積極的に行うことで、子供の居場所づくりや世代間交流を図り、公民館講座を通して新たなコミュニティを生み出す。

（例）世代間交流、学校連携、市民企画講座（例．R4 加賀田公民館の「わくわく会議」）

（３）【重点】国際理解・多文化共生

他国を尊重し、地球規模の課題を理解することで多様な価値観を持った人々との共生社会の認識を広げる。取り上げる国は各公民館の地域特性に合わせる。

（例）異文化交流、国際平和、万博

（４）【重点】情報・テクノロジー

公民館設置のタブレットを使用し、インターネットを活用した講座を促進する。また、有害情報の氾濫など情報ネットワークによる諸問題への認識を高める。

（例）動画作成、オンライン配信講座、ZOOM 活用、インターネットモラル

（５）健康

老若男女が心身ともに健康に、いきがいとなる文化活動やスポーツ活動を行うことができる状態を目指す。モルック等の幅広い年代が楽しむことができるスポーツを積極的に取り入れていく。また、ボランティア養成や学校・地域イベントなど、学んだことを地域で活かす機会を創出する。

（例）認知症予防、体操、ニュースポーツ、ボランティア養成

（６）家庭教育・健全育成

親同士のネットワークを作り、親の身体的・精神的負担を軽減する。一方でその役割や責任の自覚を促す。また、思いやりの心、命を尊ぶ心、ルールを守る心、勇気をもって行動する心など、いわゆる豊かな心や社会性を育む。青少年の個性と独創性、自らを律し自己責任を持ち、自立の精神を有する意識を育む。

（例）こども教室、親学習、野外活動、学校連携等の保護者対象講座、進路相談会

（７）環境

豊かな自然環境を守り育てるために、資源の循環や環境負荷の低減に関する理解を深める。

（例）リサイクル、フードドライブ、ごみ問題、エネルギー問題、節電対策、水

（８）郷土・伝統・文化

河内長野の自然豊かな郷土と多くの文化遺産の魅力を知ること、青少年をはじめ市民の郷土愛を育む。また、地元企業との連携などで産業の活性化につなげる。

（例）まち歩き、河内長野版歳時記活用、地場産業、職業体験、郷土の魅力発見

（９）安全・安心

安全に安心して市民が生活できるように、参加者同士の体験活動などを通して、必要な知識や行動についての理解を深める。

（例）感染症、避難所体験、防災ゲーム、大規模地震対策

令和7年度くろまる塾本部講座の実績及びアンケートから見る考察

資料2

ジャンル	開催日	タイトル	講師名	参加者数/ 定員	満足度 (%)	年齢層 70歳代以 上の割合 (%)	主な感想	分析
歴史・文化	4月19日（土）	版元、蔦屋重三郎と黄金期の 浮世絵 ～歌麿、写楽を中心に～	大阪公立大学 文学研 究科教授 菅原 真弓	55/100名	38	64	ホットなテーマに焦点が当たって興味深く聞 き入りました。 江戸時代の文化に興味が湧きました。 講座のテーマと講師のお話が面白かった。	大阪公立大学の生涯学習・出張講義によるもの。 大河ドラマ「べらぼう～蔦重栄華乃夢噺～」に合 わせて企画した。 講師の浮世絵好きが感じられる内容で、ユーモア も交えて引き込まれる内容であった。 参加者も多く、感想の評価も良いが多かったが、 満足度が意外と低く残念であった。
歴史・文化	7月18日（金）	聖地・高野山に受け継がれし もの 世界遺産高野山を巡る～高 野山参詣の意義～	高野山大学 密教学科 准教授 北川真寛	49/100名	56	71	聞きやすく、解りやすく、おもしろくお話し していただき、とても良かったです。高野山 についてもっと勉強したくなりました。	高野山大学連携講座は、過去から関心の高い講座 であり、今回も多く申込があった。 アンケート結果は、1回目と2回目ともに具体的 感想は評価は高い。しかし2回目の満足度は低く 残念である。
歴史・文化	8月20日（水）	聖地・高野山に受け継がれし もの 高野山とチベットのマンダラ を比較する	高野山大学 密教学科 特任講師 徳重 弘志	49/100名	21	76	曼荼羅の世界の奥深さに触れて、仏教文化の すごさが解った。 難解な話題をやさしく解説していただいて日 本とチベットの密教の違いが何となく理解で きた。 曼荼羅何度聞かせていただいても難しい。	
歴史・文化	10月9日（木）	河内長野市のお寺をめぐる 高野山への道 ふるさと歴史学習館で学ぶ	尾谷 雅彦 氏	13/20名	50	84	観心寺、金剛寺の歴史を丁寧に教えていただ き、次回からの探訪の興味が一層増しまし た。ふるさと歴史学習館の展示が面白く良 かったです。	
歴史・文化	10月30日（木）	河内長野市のお寺をめぐる 高野山への道 天野山金剛寺で学ぶ	尾谷 雅彦 氏	12/20名	73	75	時代背景等を詳細に説明していただき、また 今まで拝観したことのない所も見学させてい ただき大変勉強になりました。	マイクロバスでの移動としたため、定員20名の 講座とした。講師の説明が丁寧で、普段見学できな い場所を見せていただくことができ、参加者の満 足度も高く、より理解度が、高まった。
歴史・文化	11月27日（木）	河内長野市のお寺をめぐる 高野山への道 観心寺で学ぶ	尾谷 雅彦 氏	12/20名	64	73	何度も来ているが、改めて説明をお聞きし、 より一層興味が湧きました。 先生の史実に基づいた説明は解りやすく勉強 になります。	
歴史・文化	令和8年3月19日（木）	デジタル技術が支える文化財 の活用 ～仏像のレプリカを中心に～	奈良県立大学 地域創 造学部教授 山田 修	17/100名	38	79	文化財が現在どのように使われ、発展してい るかを知れて、大変興味深かったです。 新しい視点を知れてよかった。	
歴史・文化	10月23日（木）	漢字研究の巨星 白川静の世 界～最終章～ 「白川静の一生と漢字の学び 方」	立命館大学白川静記念 東洋文字文化研究所 後藤 文男	24/100名	57	72	講師の情熱を感じました。漢字の面白さをこ んなに感じたことは初めてです。 漢字の成り立ちと似た字のつながりを理解す るとわかりやすく、楽しく学べることが解っ た。	この漢字研究の巨星「白川静の世界」は、10年 間連続で開催した人気のある講座です。 近年は、申込者数が減ってきており、参加者数の 減少が課題となっています。 本講座には、定着した受講者の方がおられ、高齢 者の割合も高くなっています。 このような状況から、今後は、毎年の開催ではな く間隔をあけて開催する。
歴史・文化	11月6日（木）	漢字研究の巨星 白川静の世 界～最終章～ 「白川静の最大の発見 ～口（さい）について～」	立命館大学白川静記念 東洋文字文化研究所 後藤 文男	23/100名	57	72	説明が解りやすく、楽しかった。 文字の成り立ちは、よく考えられたと思いま す。素晴らしい発見から文字が作られたこと に感謝、素晴らしい講話を聞けてありがとう ございました。	
文学	8月23日（土）	中国古典小説「水滸伝」を知 る 「水滸伝」の成立をめぐって	大阪大学大学院人文学 研究科講師 佐高 春音	34/100名	29	64	大学の授業を受けたような感じがしました。 高尚な内容でした。 知識の無い中で受けたので、難しかった。一 度ちゃんと読んでみたい。	中国四大奇書の一つ「水滸伝」について学んだ。 申し込み者数は少なく、また満足度も低い結果と なった。 参加希望が少なく、また満足度も低く、今後の検 討課題となった。
文学	8月24日（日）	中国古典小説「水滸伝」を知 る 「水滸伝」の展開をめぐって	大阪大学大学院人文学 研究科講師 佐高 春音	27/100名	35	65	話の内容がマニアックで深すぎる。 古典を研究すると、ここに到達するのだと思 いました。 話の面白さ、特徴等を知りたかった。	

ジャンル	開催日	タイトル	講師名	参加者数/ 定員	満足度 (%)	年齢層 70歳代以 上の割合 (%)	主な感想	分析
文化	令和8年1月29日（木）	放送とことば その2 人を「活かす」ことば 放送 と大学の現場から	大阪芸術大学 放送学 科教授 林 真一郎	35/100名	32	70	言葉は時代とともに変わっていく。略語もし かり、発音しやすいように変化していく。	元放送局のアナウンサーによる講座であり、話は 面白いものでした。 ただ、タイトルと内容に差異があった。今後の課 題としたい。
平和・人権教育	9月17日（水）	絵本を通して平和の心を育む 「平和とは？絵本を通して考 える」	桃山学院大学 人間社 会学部准教授 杉本 孝美	25/100名	63	74	子ども目線で絵本を読むことが多かったの で、大人として絵本を楽しむ豊かを感じまし た。 大人も楽しめる深い本を紹介していただき、 楽しい時間、考える時間をありがとうございました。	講座の参加率が低く、講座の募集方法等に課題が 残る。 講座満足度が高かったため、よりたくさんの方の 参加してもらえるように工夫が必要である。
平和・人権教育	12月7日（日）	絵本を通して平和の心を育む 「絵本を深く読む～平和な時 間を共に～」	桃山学院大学 人間社 会学部准教授 杉本 孝美	16/100名	72	43	絵本から「平和」や「環境問題」への気づき が出来てよかった。 考えさせる絵本、楽しめる絵本について、周 りの方とお話することでとても心が動かされ ました。	
科学（情報）	12月26日（土）	社会を変えるAI時代 「変わりゆく社会」	近畿大学総合社会学部 保本 正芳	19/100名	38	59	ITからICT=>IOTの流れが良く解った。最新 技術の使用にあたって、皆が正しく理解し ルールを守った使い方が必要であること、そ のとおரிだと思った。	今回のAI講座では、社会の変化から人工知能、生 成AIの仕組み等ついて学びました。 申込者数が少なく、また満足度も低かったことか ら、講座募集と講座内容について課題を残した。 次回は、生成AIを実際に使っての実習を取り入れ る講座開催にする等検討したい。
科学（情報）	令和8年1月7日（水）	社会を変えるAI時代 「AIと共生する社会」	近畿大学総合社会学部 保本 正芳	20/100名	35	80	チャットで画像や動画が作れるのは面白そう で、やってみたいと感じた。 人とAIの役割分担を間違えないようにするこ とは重要だと感じた。	
社会	5月22日（木）	河内長野の水道事業を学ぶ ～日野浄水場の見学会～	水道事業職員	19/25名	42	68	日々使用している水道水をつくる過程を見学 して水道水のありがたさが今までよりも倍増 しました。	くろまる塾ボランティアの企画により取り組んだ もの。 マイクロバスで送迎したため、講座定員は、25 名としたため、定員以上の申込があった。 普段何気なく利用している上下水道施設を見学 し、重要性を認識した。今後も継続していきたい 講座である。
社会	11月14日（金）	河内長野市の下水道事業を学 ぶ ～狭山水みらいセンターの見 学会～	下水道課職員及び狭山 水みらいセンター職員	17/25名	43	57	アウトドア感覚で施設見学が出来た。気にな る施設を見て説明していただき良かったで す。 下水処理のしくみを具体的に五感含め知るこ とができてよかった。	
健全育成	12月21日（日）	親子で漢字の成り立ちを学ぶ ～河内長野漢字探検隊～ 消しゴムハンコで古代文字を 学ぶ	立命館大学白川静記念 東洋文字文化研究所 久保 裕之	29/15組	60	4	ハンコづくりだけでなく、漢字の歴史の話 をしてくれたのが良かった。 絵や図をたくさん使いながら、クイズ形式で 進めていただいて子どもたちが引き込まれて 楽しんでいた。	消しゴムハンコの作成と漢字の成り立ちを学ん だ。 当初予定していた定員を超えての申し込みがあ り、部屋を変更して実施した。 参加者の満足度も高く、良い講座となった。
情報（健全育成）	6月21日、28日、7月 5日 （午前：初級、午後：中 級）	基礎から学ぶ ロボットプロ gramming講座（初級編・中 級編）～RoboRAVE大阪大 会に参加を目指そう～	（株）ダイセン電子工 業 代表取締役 田中 宏明	初級： 延べ42名 中級： 延べ18名 定員：30名	71	0	プログラミングと最後のピンポン玉を目標地 点に入れるのが楽しかった。 プログラムを組むのがとても難しかった。 プログラムを考えるのが難しかったが、でも めっちゃ楽しかった。	小中学生のみの講座であり、実際に自動車のロ ボットを簡易プログラムで自由に操る内容であ った。 プログラミングにより自由に操作することが出来 ることで達成感、学習意欲を高めることとなっ ている。 今後は、自主的な活動につなげていく必要を感じ ている。

ジャンル	開催日	タイトル	講師名	参加者数/ 定員	満足度 (%)	年齢層 70歳代以 上の割合 (%)	主な感想	分析
情報（健全育成）	毎月1回（土曜日の午前）	基礎から学ぶ ロボットプログラミング オープンスペース～RoboRAVE大阪大会に参加を目指そう～	（株）ダイセン電子工業 代表取締役 田中 宏明	7回開催 延べ28名	-	0	-	令和6年度、7年度に開催したプログラミング講座受講者からの要望により、月1回の自由参加のオープンスペースとして開催し、自主的に高度な内容に取り組んでおり、今後も継続していきたい。
医療・健康	6月17日（火）	医療連携講座 大阪南医療センター連携講座 健康寿命を延ばすためのリハビリ	大阪南医療センター 主任理学療法士 中田 貴士 主任作業療法士 佐藤直美 主任言語聴覚士 北村 真也	70/100名	26	75	運動が人間の心と体にとっても重要な役割をしていることが解った。 今日のテーマは、いま一番知りたかった興味深い内容でした。	大阪南医療センターとの連携講座は、専門性が高く、受講者の関心も高く受講者数が多い。 また、専門医師等からの信頼性の高い情報を得る機会となり、健康意識の向上、疾病予防の理解につなげることができたと感じている。 これらの講座は、最新医療についての理解、安心感をもたらしていると感じた。
医療・健康	9月9日（火）	医療連携講座 大阪南医療センター連携講座 脳卒中～とくに脳梗塞について知っておこう～	大阪南医療センター 脳卒中センター部長 山田 興徳	79/100名	47	71	脳梗塞に関する理解が深まり、早く発見し対応することの大切さがわかりました。 パワーポイントが解りやすく、よく理解できた。	
医療・健康	令和8年3月5日（木）	医療連携講座 大阪南医療センター連携講座 胸の手術って怖いですか？～呼吸器外科医がやさしく教えます～	大阪南医療センター 呼吸器外科部長 西田 達	50/100名	39	71	肺がん治療が日進月歩で進んでいるのがよくわかりました。 こわい話をやさしく、わかりやすく話していただき、納得できた。	
医療・健康	12月6日（土）	くろまろボランティア企画 ご近所ドクターに学ぶ 視力（目）の機能～目から元気に～	河内長野医師会医師 江富眼科院長 江富 朋彦	43/100名	32	62	眼の事が良く解りました。知らないこと、難しいことを解りやすくお話いただいた。 1年に1回の検診を受けようと思った。	
医療・健康	令和8年2月14日（土）	近畿大学連携講座 家庭の東洋健康医学	近畿大学 社会連携推進センター 講師 日置 智津子	43/100名	11	64	呼吸法、ツボ、体を使って教えていただき良かった。先生の話し方やベースが良くて聞きやすかった。 漢方薬、東洋医学が好きなのでよかった。 漢方の内容が十分理解できなかった。身近な漢方の話をもっと聞きたかった。	東洋医学（漢方薬）についての講座であった。 漢方薬の講座ということで、申込者数が多かったが、満足度は低かった。 講座内容（漢方）について知識がないと理解しにくかったのか。？
			受講者数計	894名	※満足度は、アンケートの「大変満足」の割合です。			
全体を通して								
・全体的に70歳以上の参加者が多い。70歳以上の割合が50%を超えた講座は、31講座中22講座であり、もっと多様な年齢層に参加していただける講座を開催する必要がある。 ・講座の参加にあたって、現在、市広報誌への掲載、チラシの市有施設・郵便局等での配架、市LINEでの啓発を行っているが、参加者数は少ない状況にあり,参加者数の増加にあたっては、よりニーズのある話題や講座のテーマ等、多くの方が参加したくなる講座を開催する必要があると感じている。 ・歴史・文化の「河内長野市のお寺をめぐる 高野山への道」の講座については、3回シリーズとして、初回を、「ふるさと歴史学習館」での座学で学び、2回目・3回目は、金剛寺・観心寺での現地学習を実施した。受講者の満足度が高く、良い講座となった。少人数でしっかり学ぶ講座も良いと感じた。 ・水道事業、下水道事業の講座として、日野浄水場、狭山水みらいセンターの見学会を企画したところ定員に達した。また満足度も高い講座となった。普段あたりまえに使っているものでも、知らないことが多くあり、今後もこのような現地見学講座を進めていきたいと感じた。 ・子どもロボットプログラミング講座を開催したところ、受講生から継続したプログラミング講座の受講希望があった。そこで、市は場所の提供を、講師はロボット・パソコン等機材の提供、参加者は消耗品（乾電池）を自ら負担することとし、月1回のオープンスペースを開催している。現在は、5人が参加しており、令和8年度のプログラミング講座のアシスタントとして参加する予定です。								

令和 8 年度第 1 回社会教育委員会議 社会教育第 2 課資料

1. 市立ふるさと歴史学習館の夏季の催し

(1) 大阪・お城フェス 2026 への出展

展示名称：中世における 3 つの内乱期と河内長野

会 期：令和 8 年 8 月 8 日（土）・9 日（日）

会 場：ナレッジキャピタルコングレ・コンベンションセンター
（グランフロント大阪北館・B2F）

主 催：テレビ大阪株式会社／株式会社コングレ

(2) 市立ふるさと歴史学習館 企画展

展示名：いただきます！ みんなの給食ものがたり

会 場：河内長野市立ふるさと歴史学習館企画展示室ほか

期 間：令和 8 年 7 月 1 8 日（土）～9 月 2 3 日（水・祝）

内 容：河内長野市の学校給食の歩みを、献立表や給食用具、写真パネル、行事食の模型などを通して紹介します。展示を通して、来館者が自身の給食の思い出を振り返り、世代を超えて語り合うきっかけとなることを目指します。あわせて、給食に関わる人々への感謝の気持ちや、地域の食文化への関心を深めてもらうことをねらいとします。

2. 河内長野版歳時記プロジェクトについて

(1) 『ぎょうじしょくってなぁに？』の刊行

内容：子どもにもわかりやすく行事食について紹介した絵本

部数：50 冊

仕様：H257×W210 mm（A B 判）

ブックカバー付きカラー上製本（ハードカバー）

フルカラー

3 2 ページ

作画：きた あいり氏

配架：市内、図書館・小学校・公民館など

(2) 「デジタルコンテンツ」の作成

内容：高向神社秋季大祭の子ども獅子舞（高向下町会）

媒体：DVD（約 25 分）

活用：今後、公民館、小中学校での出前授業で活用を検討

「じぶん」が活きるまちって、
どんなまちだろう。

河内長野市からの メッセージ

時代の変化とともに
子どもたちの学び方も
多様化していきます。

学ぶことは、生きることです。
学校だけではなく、地域のすべてを
「学びの場」に位置付けます。

私たちは、河内長野を
“不登校” という概念そのものがない
地域にしたいと本気で考えています。

これまでも、そしてこれからも、
いつ、誰と、どこで、どのように
学ぶのかを市民一人ひとりが
選択できるまちを目指します。

教育大綱 とは

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、
市長と教育委員会で構成する総合教育会議において
協議し、市長が策定するものです。

教育推進プラン とは

教育大綱が掲げる「基本理念」及び4つのビジョンを
もとに、教育委員会が教育の目標と8つのActionを
定め、毎年度の主な施策（取組み）を示すものです。

ち い き ま る ご と
MANABIのBA

こども
まんなか

第 3 期 河内長野市教育大綱

Kawachinagano City
Basic Policy for Education

地域がまるごと、学校。

教育大綱 基本理念

誰一人取り残さない 「こどもまんなか教育」の実現

E S D (Education for Sustainable Development) の視点に立った学校教育を進め、子どもが本来持つ主体性を発揮しながら、探求能力や当事者意識を育み、自己肯定感が高まる学びの環境を整備します。

そして、すべての市民が人権意識や郷土愛に根差し、主体的に地域課題を解決するための社会教育を受ける機会を提供します。

個が活きる学びへ。 そして、「教える」から「学ぶ」へ。

一人ひとりが持つ可能性を最大限に活かすため、学びの多様性に応じた学校教育を推進します。

主体性や個性、人権が尊重された、すべての子どものウェルビーイングを高めます。

そして、子どもの自己実現の基盤となる学びの環境について、子どもたちが主体的に「学ぶ」、「子どもが主語」の学校の実現を目指します。教育に携わる者一人ひとりが意識改革を重ねながら、その担い手となり、持続的に学ぶ組織であり続けます。

地域がまるごと「学びの場」。 そして、「学び」を誰かの「喜び」に。

子どもも大人も「創り手」として社会に参画できるよう、学校、家庭、地域、企業、行政が連携し、新たな価値を創造するコミュニティを実現し、学校の外にも学びがいっぱいあるまちを目指します。

そして、いくつになっても、多様な学びが身近にあるまちを実現し、学んだ知識や技術が誰かのため、地域社会のために活かすことで、豊かな「学び」と「喜び」の好循環を生み出します。

Vision (目指す姿)

- I 地域がまるごと、学校（学びの場）。
- II 学びを、誰かの喜びに。
- III “ここにしかない” 時間を求めて。
- IV 地産地消で、日本一の給食カレーを。

河内長野市長 西野 修平



教育推進プラン 教育の目標

誰一人取り残さない 「社会の創り手」を育てる教育

誰もが学べる「学びのまち」の創造 ～学校教育と社会教育の連携から融合へ～

就学前の学びから社会教育へ。

河内長野市での学びがすべてつながり、未来の「社会の創り手」を育てていきます。教育大綱の理念を具現化するため、学校教育と社会教育の融合を図ります。

そして、すべての市民が自ら主体性を発揮し、あらゆる他者と協働しながら、当事者意識を持った「社会の創り手」となるために、生涯にわたり学び続けられる「学びのまち」を創造していきます。

教育推進プラン 8つの Action

Action 1

誰もが安全・安心に学べる
学校の環境整備

Action 2

「様々な他者との協働的な学び」と
「多様性を包摂する教育活動」
の推進

Action 3

就学前の学びから学校での
学びが一つにつながる教育

Action 4

「自分で考え、自分で決める」
「自分の『好き』を見つけて探究する」
学校教育の推進

Action 5

「子どもの育ちを支える」
家庭・地域の教育力の向上

Action 6

「学び」が広がり「好き」が
見つかる学びの場の提供

Action 7

「市民が集い・学ぶ」
図書館運営の充実

Action 8

多様な人々が関わり合いながら
学び・伝え・活かす歴史文化遺産

【主な取組み】

- 子どもの主体性と探究力を育む授業研究の推進
- 学校ハビリテーションルーム（学校作業療法室）への専門人材の配置
- 新学校給食センターの稼働と給食無償化の実現
- 新たな小中一貫教育推進校の設置
- 学校と公民館との複合化施設の稼働開始

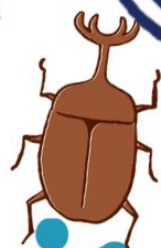
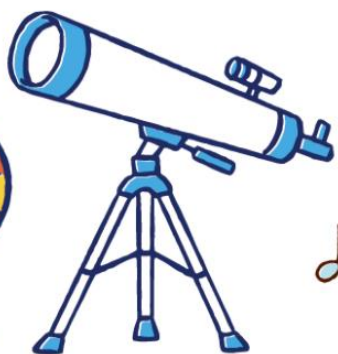
河内長野市教育長 小川 祥

夏休み 子ども体験 イベント情報

2026

この夏、やってみたい！がきっと見つかる。
学んで、遊んで、発見しよう！

- ・ 河内長野市立公民館
- ・ 河内長野市立図書館
- ・ 社会教育第1課
- ・ 河内長野市立ふるさと歴史学習館
- ・ 河内長野市文化連盟
- ・ 河内長野市美術協会
- ・ 産業観光課



夏休み子ども体験イベント一覧

ワクワクを探そう！ どんなイベントがあるのかな？



日程	イベント名	開催場所	QRコードNo
7月18日(土)	図書館探検ブック配布開始	河内長野市立図書館	2
7月18日(土)	おはなし会	河内長野市立図書館	2
7月18日(土)	モックルチャレンジルーム 最強の紙ひこうきを作ろう！	ノバティホール	3-①
7月18日(土) ～8月30日(日)	アイの葉っぱでつくるたたき染めコースター	河内長野市立 ふるさと歴史学習館	4
7月18日(土) ～9月23日(水・祝)	ふるさと歴史学習館企画展 「いただきます！みんなの給食ものがたり」	河内長野市立 ふるさと歴史学習館	4
7月23日(木)	VR(バーチャル)工場見学とCAD工作	三日市公民館	1
7月25日(土)	夏休みおはなし会	河内長野市立図書館	2
7月26日(日)	夏休みおはなし会	河内長野市立図書館	2
7月26日(日)	文化連盟の夏休み子ども体験教室	河内長野市立 市民交流センター	5
7月26日(日)	駅長に聞く 南海電車のヒミツ	川上公民館	1
7月28日(火)	子ども型染友禅教室	南花台公民館	1
7月29日(水)	クレヨン画を描こう！	加賀田公民館	1
7月29日(水)	フォトフレーム風アクリルキーホルダーを作ろう！	高向公民館	1
7月29日(水)	夜空の観察会 満月を見よう！	千代田公民館	1
7月30日(土)	親子で清掃工場見学と特定外来生物の標本づくり	天野公民館	1
8月1日(土)	おはなし会	河内長野市立図書館	2
8月1日(土)	子ども囲碁教室	天見公民館	1
8月1日(土)	消防署見学	三日市公民館	1
8月2日(日)	親子工作教室 竹あかりまたは竹あかり貯金箱	天野公民館	1
8月2日(日)	親子算数パズル教室「折りたたみのフシギ」	天野公民館	1
8月2日(日)	子ども写生教室	大阪府立花の文化園	6
8月2日(日)	藍の生葉で染めるシルクハンカチ	河内長野市立 ふるさと歴史学習館	4



4ページのQRコードから申し込んでね♪



日程	イベント名	開催場所	QRコードNo
8月7日(金)	みんなで楽しむ昔話の会	河内長野市立図書館	2
8月7日(金)、8日(土)	「いつもの町が、工場に変わる。親子で体験、ワークワクワク河内長野！」	イズミヤSC河内長野 よりバスで各工場へ	7
8月8日(土)	おはなし会	河内長野市立図書館	2
8月8日(土)	モックルチャレンジルーム 夏休み子ども体験教室	河内長野市立 市民交流センター	3-②
8月8日(土)	子ども科学教室 遠心力シャボン玉	天野公民館	1
8月8日(土)	親子友禅体験教室	天野公民館	1
8月8日(土)	一日で完成！親子で楽しむDIY in 木根館	高向公民館	1
8月9日(日)	英語のおはなし会	河内長野市立図書館	2
8月11日(火・祝)	科学教室:顕微鏡をのぞいてみよう	河内長野市立図書館	2
8月15日(土)	おはなし会	河内長野市立図書館	2
8月19日(水)	めざせ！！図書館マスター	河内長野市立図書館	2
8月19日(水)	夜空の観察会 星空を見よう！	千代田公民館	1
8月20日(木)	めざせ！！図書館マスター	河内長野市立図書館	2
8月20日(木)	子どもプログラミング教室	南花台公民館	1
8月22日(土)	おはなし会	河内長野市立図書館	2
8月22日(土)	スポンジテニスを楽しもう！	加賀田公民館	1
8月22日(土)	家族でピザランチクッキング	川上公民館	1
8月23日(日)	みんなでボッチャ！ご家族・友達と、一人で	三日市公民館	1
8月23日(日)	さわる絵本・布の絵本大公開	河内長野市立図書館	2
8月23日(日)	ちいさな給食をつくろう！ ～工作で楽しむ給食モチーフ～	河内長野市立 ふるさと歴史学習館	4
8月29日(土)	おはなし会	河内長野市立図書館	2
8月29日(土)	生きる力をはぐくもう！親子で笑顔のお片付け	天野公民館	1
8月29日(土)	対決！スポーツチャンバラ	三日市公民館	1

イベントQRコード一覧



気になるイベントは見つかったかな？
QRコードを読み取って申し込もう！

※各イベントの詳細をご確認のうえ、お申し込みください。

No.1 河内長野市立公民館

問合せ先：

社会教育第1課 54-0005(FAX 54-0004)

または各公民館へ



No.2 河内長野市立図書館

問合せ先：

河内長野市立図書館 52-6933(FAX 52-6996)



No.3 社会教育第1課

問合せ先：

社会教育第1課 54-0005(FAX 54-0004)

①



②



No.4 河内長野市立ふるさと歴史学習館

問合せ先：

河内長野市立ふるさと歴史学習館 64-1560(FAX 64-1900)



No.5 河内長野市文化連盟

問合せ先：

文化連盟事務局 56-6100 (ラブリーホール内)



No.6 河内長野市美術協会

問合せ先：

河内長野市美術協会 泰中 53-6928



No.7 産業観光課

問合せ先：

産業観光課 53-1111



※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの商標登録です。